

## 開学記念講演

大分県立看護科学大学は平成10年4月に開学した。平成10年6月19日に開学記念行事の一環として記念講演会が開催され、日赤看護大学の樋口康子学長、NHK解説委員の小出五郎先生をお招きし、それぞれ「21世紀の看護をめざして」「医の倫理と看護と倫理」のご講演をいただいた。本稿は、その講演の概要をまとめたものである。

## 21世紀の看護をめざして

樋口 康子

日本赤十字看護大学学長

### 1. 日本における看護教育の現状

日本では、昭和27年(1952年)に高知女子大学において最初の看護系の大学教育が開始され、さらに、翌年には東京大学に衛生看護学科が新設されたが、それ以降は、10年以上看護系の大学・学部・学科の新設、増設は行われないまま推移した。平成に入り、看護職に対する大学レベルでの教育の必要性が認識されるようになり、逆L字型の勢いで看護系の大学、学部、学科が新設、増設され、現在64校で看護の教育が行われている(平成11年にはさらに増加し、現在76校の看護系の大学、学部、学科がある)。大学院教育は、修士課程、博士課程の教育が昭和40年に東京大学に始まり、最近になりようやく修士課程が増加しつつあるが、博士課程も含めた大学院教育はまだまだ遅れている。

本来ならば徐々に増加していくべき大学が急激に増設されたために、学問の府としての大学が何をなすべきか、大学人として何をなすべきかなどの基本的なことが大学のすべての教員に十分浸透していないところが大きな問題である。教員の質と数、大学としての教育方法・教育内容、学術的研究の推進など解決すべき数多くの問題が残されていることを大学に席を置く者は認識しなくてはならない。これらのさまざまな問題は、大学院レベルの教育を受けた人々の活躍によって変えられていくものと思われるので、わが国の看護の現状が大きく変わり、看護学としてのレベルが国際的な水準に達するのは数十年先のことであろう。

### 2. 看護教育の日米比較

看護教育のシステムが最も進んでいるのはアメリカであり、現在、全州に488の看護系の大学があり、専門的な教育・研究が実施されている。表1に示すよ

うにアメリカでは、看護職の養成は、大学が33%、短大が56%、専門学校が11%で行われている。これに対して、日本では、短大、専門学校での教育が83%を占めている。大学院の教育も含め、日本の看護教育はアメリカに比べて50年近くの遅れをとっているものと思われる。

### 3. 看護学の体系化に向けて

#### (1) 学問としての看護学

学としての看護学はまだ未発展であり、高齢化社会、医療の高度化・専門化などの社会の変化に対応した看護学の体系化を図るために大学ができてきたと認識しているので、大学の教員の責任は大きい(ただし、看護学が体系化された結果として大学が急増したと受け止めている人々もいる)。

看護学は、物理、数学などの普遍的な科学とは異なり、人間を対象として看護という現象を見ていく人間学であり、環境との相互作用により常に全体として丸ごと変化し続けている。

現在の看護学は、患者の現象を追求するために、さまざまな学問領域の知識、たとえば、医学の領域からは疾患や機能に関する知識や心理学の領域からは苦痛や、苦悩をもっている患者の心理状態を把握するための知識を、人間の成長や発達に関する知識を、社会学からは家族理論を借りたパッチワークのような学問である。このようなつぎはぎだらけの学問は、着心地が悪く、外から見ても見苦しい着物のようなものである。独自の体系化を図ることが不可欠である。看護学を成立するためには、全ての学問領域の助けが必要であり、科学論、カオス理論、複雑性の科学などの「知」も取り入れて看護学としての学を構築していく必要がある。看護の専門性に目覚めた人々が、実践の中から、看護の現象を科学的に見つめるという作業を開始し、看護学としての専門性を確立する作業をしつつある。日本でも博士課程の大学院生が、新しい手法を取り入れた素晴らしい仕事を積み重ねている。

表1 看護基礎教育機関の日米比較 1997.5

課程	国名 対比年度 (人口:千単位) 対比視点	アメリカ		日本	
		1989年 (247,235人推)	1995年 (260,651人推)	1989年 (123,255人調)	1997年 (125,569人調)
学士課程	大学数	488 (全州+DC)	521 (全州+DC)	11	53
	入学許可数(米)	29,858名	43,451名		
	入学定員数(日)			525名	3,408名
	全RN校中(%)	33%	34.4%	1.2%	6.7%
準学士課程	短期大学数	812	876	70	84
	入学許可数(米)	63,973名	76,016名		
	入学定員数(日)			4,660名 (含2年制)	5,910名 (含2年制)
	全RN校中(%)	56%	57.8%	10.6%	11.5%
ディプロマコース	専修学校 専門学校 病院付属学校	157	119	869	918
	入学許可数(米)	10,010名	7,717名		
	入学定員数(日)			38,754名	42,662名
	全RN校中(%)	11%	7.8%	88.2%	83.0%

## (2) 看護学と医学との関係

医学と看護学は上下関係にあるものではなく、両者がそれぞれの特徴を生かして患者の自己実現のための支援をしていくべきである。

医学は、18世紀以降、近代科学のポリシーを受け継いで、基本的には部分集成的、分析的な研究手法のもとに発展してきた学問である。一方、看護学は、医学の客観的、還元論的な人間に対する取り組み方に対して疑問を投げかけている。人間は、部分の集合体ではなく独自の個性を有する存在であり、感情や価値観を持ち、健康上の問題を抱えている一人ひとりの人間を対象として組み立てていく学問である。看護学は、還元論的な思考に陥らないように注意しつつ、人間の自己創出、自立性を尊重した学問の体系化をめざす必要がある。このために、患者の価値観、習慣、生き甲斐、人生観、社会的な活動の状態、環境の諸要因、病気についての患者の受け止め方、医療従事者に対する信頼感などを総合的に判断していけるような学際的で、看護の哲学にそった解釈を取り入れた学問をめざさなければならない。

看護学のような学際的な学問分野が独自性をもって発展していくためには、それぞれの分野の支援は不可欠であるが、他の分野の人々、とくに医学分野の人々が主役になるよう状況をつくってはならないと思

う。このためにも、看護系大学の人々には大きな期待がかかっていることを認識して欲しい。

(大分県立看護科学大学 草間 朋子 記)